

これからの  
工務店は  
営業しない!

# 相続相談から始まる 新たな受注戦略

## 第11回

### “相続の話” 家族と未来を考える

▼  
そこから始まる、家づくりのあり方

これからの住宅提案を考えるうえで、避けて通れないのが高齢化と認知症の問題です。

現在、認知症およびその予備軍は65歳以上の約3人に1人とされており、今後さらに増加していくと推計されています。加えて、要介護認定者も年々増加しており、高齢者を支える現役世代は少子化によって減少しています。

つまり、老後は誰もが介護や支援を必要とする可能性がある時代に入っているということです。

このような状況の中で、すべての人が施設に入れるわけではなく、今後は在宅介護や在宅医療が中心になっていくと考えられます。

そうなる**重要になるのが、自宅で生活を続けられる環境づくり**です。段差の解消や手すりの設置といったバリアフリーリフォームは

もちろん、場合によっては施設や医療機関の近くへの住み替えといった選択も必要になります。

また、**認知症による財産凍結を防ぐための財産管理の準備**も欠かせません。

こうした将来のことを家族で話し合い、方向性を決めていくことが重要ですが、その多くは住まいと資産が密接に関わる問題です。だからこそ、建築業者が相談に乗り、生活と資産の両面から提案できる存在になることが求められています。

施設や病院が増えても支える人材が不足すれば、受け皿には限界があります。だからこそ住まいの備えが必要です。これはもう

#### ■ 高齢者数と有病率の将来推計

年	2022年 (R4)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2040年 (R22)	2050年 (R32)	2060年 (R42)
認知症 高齢者数	443.2万人	471.6万人	523.1万人	584.2万人	586.6万人	645.1万人
高齢者における 認知症有病率	12.3%	12.9%	14.2%	14.9%	15.1%	17.7%
軽度認知障害 高齢者数	558.5万人	564.3万人	593.1万人	612.8万人	631.2万人	632.2万人
高齢者における 軽度認知障害有病率	15.5%	15.4%	16.0%	15.6%	16.2%	17.4%

資料：「認知症及び軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」  
(令和5年度老人保健事業推進費等補助金 九州大学二宮利治教授)より厚生労働省にて作成

他人事ではありません。現実問題です。

このように、これからの時代は「**老後をどう暮らすか**」「**どこで生活するか**」といった視点から**住まいを考える**必要があります。後に**なって困らない**ためにも、元気づけに**うちに家族で話し合い備えておく**ことが大切です。

今回は、工務店が「人生の相談役」として選ばれるための考え方について解説します。

#### プロフィール

株式会社デザインライフ  
代表取締役 杉村洋介

岡山県出身。26歳で保険代理店「デザインライフ」を設立後、2015年より相続コンサルタント事業を開始。年間約500件の相続相談に対応し、遺言・信託・相続税・登記・保険・不動産など幅広くサポート。現在は全国の相続専門家育成にも携わる。

Tel 0120-009-422

E-mail dl-consultant@design-life.jp

Webサイト <https://design-life.jp>

住所 〒700-0975 岡山県岡山市北区今3-9-12

